

## 共に神戸で創立。 姉妹兄弟のような思い



神戸女学院大学学長 飯 謙

関西学院の創立125周年、おめでとうございます。姉妹兄弟のような思いのうちに今日まで交わりをいただいている者として、我がことのように嬉しく存じております。

同じ神戸の創立ですが原田の森と山本通り、同じ教育事業を立ち上げますが男子校（後に共学）と女子校、同じミッションスクールでしたがメソジスト派と会衆派。このように、関西学院と神戸女学院は少しずつ特徴を異にします。しかし共に、創立以来のキリスト教主義の伝統を大切にし、「全人教育」を目指し、すでに80年以上にわたってヴォーリズのデザインによるキャンパスを構え、

しかも風雪に耐えて自由な学風を保持し、そして互いに、また阪神間の街々とも良質で友好な関係を築き上げてまいりました。それだけに、今回の記念のときを『神戸っ子』の読者の皆様とご一緒に祝いできますこと、幾重にも嬉しく感じます。地元の皆様と共に、ますます発展されますようお祈りさせていただきます。

神戸女学院も昨年に現キャンパス移転80周年を守り、来年度には創立140周年を迎えます。このような数字は、歴史を勘案すると、それ以上の重さを物語ります。124年や139年の次に、自動的に記念の年に達するのではない、と。そこには、折々に苦難に耐え、困難を引き受けた方々のストーリーが数多あります。欧化主義から国粹主義へとスウィングした時代、十五年戦争の時期、近くは阪神・淡路大震災の頃などなど。これを次の世代へと語り継ぎ、この地で教育の営みを続けさせてもらっている意義を確認しあうことが、〈周年〉という節目の時期にその集団に身を置く者の大切な務めであると考えております。

大学は時代の流れに応じて、いろいろに変わらなければなりません。この機会に、アメリカの神学者ラインホルド・ニーバーの「変えるべきことと、変えざることを識別する知恵を与えたまえ」との言葉を心に刻み、それぞれに志を全うできるように祈るものです。

## 文教地区、西宮で 互いに切磋琢磨を



武庫川女子大学学長 糸魚川直祐

「関西学院創立125周年」をお迎えになられましたことに心からお祝いを申し上げます。貴学院は、1889年、W・R・ランバス氏によって、キリスト教に基づく高邁な全人教育の理念を高く掲げて創設されて以来、125年の永き歴史を歩んでこられました。特に、第4代院長であるC・J・L・ベーツ氏が提唱された『Mastery for Service』は、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人のあり方を示され、スクールモットーとして今日まで脈々と受け継がれております。

現下のわが国は、21世紀が直面する多くの困難な課題を解決し、新しい時代を切り拓いていく

専門的知識と実践能力を併せ持つことが、これまでに以上に求められています。そのような状況にあつて、貴学院が、世界を視野におさめ、他者への思いやりと社会変革への気概を持ち、自らの大きな志をもつて行動力を発揮できる『Mastery for Service』を体現する世界市民の育成に邁進されておられることに敬意を表します。

現在、貴学は私学を代表する総合大学へと発展され、傑出した優れた人材を各界に輩出されておられます。また来年4月には、理工学部に応用系の3学科を新設し、学部を基礎研究から応用開発まで網羅する体制に強化されるとも伺っています。

本学院は兵庫県の首席視学であった校祖・公江喜市郎が1931年に欧米の教育事情を視察した際、イギリスのパブリックスクールやオックスフォード、ケンブリッジ両大学で、人間教育を受ける学生・生徒の意欲的な行動に感銘を受け、1939年に創設されました。「立学の精神」にうたわれる、高い知性、善美な情操、高雅な徳性を兼ね備えた女性の育成を教育理念として、自立した社会に貢献できる女性を育成することを「教育目標」に、教育・研究体制の整備と充実に取り組み、貴学と時を同じう来年4月に看護学部と大学院看護学研究科を開設する予定です。

今後も同じ文教地区・西宮市にキャンパスを置く大学として、互いに切磋琢磨をし、共に前進して参りましょう。

貴学院の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。